

# 自己評価シートの活用例(教諭の活用例)

兵庫県教員資質向上指標 自己評価シート(令和3年度)

職員番号	〇〇〇〇〇〇
所属	〇〇市立〇〇学校
名前	〇〇 〇〇

**1 キャリアステージ**  
採用からの年数を入力。

採用から2年目

キャリアにステージ応じ、求められる資質や取り組む時期、期待される取組例等が表示される。

**2 職名**  
職名を選択。

職に対応した指標と取組例が示される。自己評価は職に応じた指標全てについて行う。

**3 自己評価(4段階)**  
期待される取組例を参考に、年度初めと年度末に自己評価を4段階で記入する。

**4 今年度の目標(年度初め)**  
キャリアステージや自己評価を踏まえ、今年度の高めたい資質・能力や実践目標、関連する指標番号を記入する。

**5 研修の受講計画・受講履歴**  
今年度の目標達成、自らの資質向上に向け、研修の受講計画を立てる。年度末には受講状況を記入する。

**6 今年度の目標の到達度(年度末)**  
目標に向けて取り組んだ内容を振り返り、成果や課題等を具体的に記入する。

**7 グラフ**  
自己評価を記入すると、各分野の自己評価の平均が表され、バランスを確認することができる。

職名	キャリアステージ	求められる資質	位置付ける研修の種類	今年度自己評価		
				年度初め	年度末	
教諭	採用から2年目	1 教育に対する情熱・使命感	○	○	2	2
		2 国際社会で活躍する意欲や態度を育成するなど、グローバル化に対応した教育を実践することができる。	○	○	2	2
		3 養成段階の◎は、大学等で身に付けておきたい基礎的・基本的な知識や技能の指標である。	○	○	2	2
		4 求められる資質の◎は、その時期に求められる資質である。	○	○	2	2
		5 重点的に研修に取り組む時期の○は、その資質を身に付けるために重点的に研修を行う時期である。	○	○	2	2
		6 1【】は、対象とする校種・特別支援学校の学部や教科である。	○	○	2	2
		7 学校教育目標や児童生徒の実態を踏まえた年間指導計画を作成し、計画的に授業を進めることができる。	○	○	3	3
		8 学習指導要領の目標・内容に基づき、児童生徒の実態に応じた授業を設計することができる。	○	○	2	3
		9 主体的・協力的で深い学びの実現に向けた授業づくりに取り組むことができる。	○	○	2	3
		10 評価規程等に基づき、児童生徒の学習状況を把握・評価し、指導方法の改善につなげることができる。	○	○	2	3
		11 教科書及び「兵庫県道徳教育指針」等を用いて、他者や自己との対話により、自己の生き方や人としての生き方についてさらに考えを深める道徳の授業を実施することができる。【小・中】	○	○	2	2
		12 個別学習や協働学習が、様々な場面に応じて、効果的にICTを活用することができる。	○	○	2	2
13 豊かなスポーツライフを継続する資質・能力の育成をめざし、児童生徒が主体的に力・運動能力向上を図る態度を育てることができる。【小・中・高(保)】	○	○	2	2		
14 特別配慮を必要とする児童生徒の学びの過程において生じる困難さに対応することができる。	○	○	2	2		
15 児童生徒や地域の実態の把握 教材研究の充実	○	○	2	2		
16 教科担当や学級担任・ホームルーム担任としての課題改善に向けた取組	○	○	2	3		
17 自らの適性や課題に応じた研究・研修に努め、職務や教科等の専門的知識や技能の向上を図ることができる。	○	○	3	3		
18 生命の尊厳を基盤に、自他の人権を守り、様々な人権課題を解決しようとする実践的行動力を育成することができる。	○	○	2	2		
19 体験活動や実践活動を通して、児童生徒の道徳性の育成に努めている。	○	○	2	2		
20 いじめ、不登校などの教育課題の緊急性や重要性を理解し、その解決に取り組むことができる。	○	○	3	3		
21 学年・学級目標の実現に向け、学級経営案やホームルーム計画の立案・実行・改善ができ、児童生徒が安心して学べる学級づくりに取り組むことができる。	○	○	2	3		
22 児童生徒との適切な距離を保つことから、生活背景や内面の理解に努め、カウンセリング・マインド・ストレスマネジメントに基づく指導を行うことができる。	○	○	2	3		
23 社会的・精神的自立に向け、体系的・系統的なキャリア教育に取り組むことができる。	○	○	2	2		
24 児童生徒の一人一人の意欲や適性の把握 家庭との信頼関係の構築	○	○	2	3		
25 保護者や関係機関と連携を図りながら、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成できる。	○	○	2	2		
26 学校や児童生徒の健康課題を的確に捉え、それを解決するための保健教育や保健指導ができる。	○	○	3	3		
27 偏食傾向や肥満傾向、食物アレルギー等の健康課題を抱える児童生徒に対し、個別の相談指導ができる。	○	○	2	2		
28 「教員の勤務時間適正化推進プラン」に基づき、児童生徒と向き合う時間の確保と、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、計画的に仕事を進めることができる。	○	○	2	2		
29 児童生徒への指導等に関して、同僚・先輩や管理職等に相談し、指導に生かすことができる。	○	○	3	3		
30 組織の一員としての自覚 同僚や管理職への報告・連絡・相談	○	○	3	4		
31 組織の一員としての自覚 他者への敬意	○	○	3	3		
32 学校教育目標の達成に向けた校務分掌の遂行	○	○	3	4		
33 校務における自分の役割を認識し、役割を適切に果たすことができる。	○	○	3	4		
34 保護者や地域社会に向けた、学級・ホームルーム活動や部活動等の積極的な情報発信	○	○	2	3		
35 各校の情報セキュリティ実施手順等に基づき、校内の情報を適切に管理し、取り扱うことができる。	○	○	3	3		
36 学校安全のための危機管理を理解し、事件や事故、トラブルに適切に対応することができる。	○	○	2	2		
37 円滑な保健室経営	○	○	2	2		
38 栄養管理や衛生管理等の学校給食の管理と、食に関する指導との一体的な展開を行うことができる。	○	○	3	3		
39 日頃から、ストレスマネジメントに努めるとともに、教員として自覚ある行動をとることができる。	○	○	3	3		
40 適切な言動心がけ、児童生徒や保護者等からの信頼確保に努めている。	○	○	3	3		
41 日々の実践等を振り返り、自らの教育活動の工夫・改善に努めている。	○	○	4	4		

今年度の目標(年度初め)

高めたい資質・能力や実践目標	関連する指標番号
1 教員2年目として学習指導に関する指導力を高めていきたい。特に、生徒の実態を把握する方法を工夫し、実態に応じた分かりやすい授業づくりの実現に努めたい。	11・13
2 指導に従わない生徒に対して、どう働きかければよいか学び、生徒指導力を高めたい。	24・25
3 昨年度、年間の学校での仕事をひととおり経験できたので、今年度は計画的に仕事をを行い、ワーク・ライフ・バランスの実現に努めたい。	31

研修の受講計画・受講履歴

研修名	開催日	受講状況
1 2年次研修	-	受講
2 III C1216 (高)国語科教育講座	R3.9.10	受講
3 III E1301 教員が授業で活用するICT基礎講座	R3.12.9	受講
4 III F1501 教員と児童生徒のためのストレスマネジメント講座	R3.6.3	欠席
5 III D1207 (高)特別支援教育の視点を生かした生徒指導講座	R3.7.28	受講
6		
7		
8		
9		
10		

今年度の目標の到達度(年度末)

指標番号	到達度	記述欄
1	3	ICTを活用して生徒の理解度の把握に努めた。ICTの活用により、生徒の反応もよく、わかりやすい授業づくりができたと思うが、深い学びにつながるよう、今後、さらなる工夫を行いたい。
2	4	生徒理解や生徒指導の方法について、研修や先輩から学び、実践に生かしている。毎日が試行錯誤だが、徐々に対応することができている。
3	2	学校行事の準備等に力を入れたため、なかなか計画的に授業準備を行うことができなかった。経験も徐々に増えているので、来年度は学校行事の準備も含めた見直しを持ってさらに工夫を行っていきたい。

- ※1 教諭・養護教諭・栄養教諭の○は、関係する職種である。
  - ※2 主幹教諭の◎は、主幹教諭に、より求められる指標である。
  - ※3 養成段階の◎は、大学等で身に付けておきたい基礎的・基本的な知識や技能の指標である。
  - ※4 求められる資質の◎は、その時期に求められる資質である。
  - ※5 重点的に研修に取り組む時期の○は、その資質を身に付けるために重点的に研修を行う時期である。
  - ※6 【】は、対象とする校種・特別支援学校の学部や教科である。
- 年次研修・職務研修、担当者研修
  - 選択研修
  - 校内研修・OJT等

